

令和4年度 宇都宮市立上河内中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）

人間尊重の理念を基調とし、豊かな情操を備え、社会の変化に向き合いながら、常に目標を持ち、自ら学ぶ意欲を持ち続け、他と協働して粘り強く物事に取り組む心身ともに健康な生徒を育成する。

【校是：よく学び よく鍛えよ】

☆ めざす生徒像

- ・学び鍛える生徒
- ・自他を尊ぶ生徒
- ・気力あふれる生徒

☆ めざす教師像

- ・愛と情熱にあふれる教師
- ・研ぎあう教師
- ・実践する教師

☆ めざす学校像

- ・楽しく学びあえる学校
- ・協に伸びる学校
- ・信頼される学校

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- （1） 個に応じた教育を進めながら、生徒が生涯にわたって社会の変化に対応し、成長し続けることができるように、その基盤となる「知」・「徳」・「体」のバランスのとれた力の育成に努める。
- （2） 全教職員が使命感と意欲をもって学校経営に参画し、教育課程の具現化に取り組むことで生徒・保護者・地域の信頼や期待に応え、地域とともにある学校づくりに努める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1） ○「確かな学力」を育むことをめざして
 - ①学力調査等を活用した現状分析と改善策の検討並びに実践
 - ②習熟度別学習等による生徒の実状に即した指導・支援の推進
 - ③家庭学習の習慣化と充実に向けた指導の徹底
 - ④授業におけるアクティブラーニングの推進（主体的・対話的・深い学びの実現）
 - ⑤端末を有効活用した AI ドリルを朝の学習などで活用
- （2） 「豊かな心」を育むことをめざして
 - ①道徳科を核とした心の教育の充実
 - ②体験活動や読書活動を通しての豊かな感性の育成
 - ③行事や係活動等を通しての自己有用感や自己肯定感の涵養
 - ④ボランティア活動や他と協働しながらの活動による「他者を思いやる心」の育成
- （3） 「健康で安全な生活を実現する力」を育むことをめざして
 - ①健康診断や新体力テスト等による現状把握と改善に向けた取組の推進
 - ②食育や保健指導の更なる充実と推進
 - ③進んで運動に取り組む環境づくりの推進
- （4） 「未来を生き抜く力」を養うことをめざして
 - ①社会の動きに対しての興味・関心の喚起及び情報提供の促進
 - ②地域の教育力活用と生徒の地域行事への積極的参加の推進
- （5） 「教職員の資質・能力」と「学校のチーム力」の向上をめざして
 - ①OJT・研修等を通しての教師の授業力向上に向けた取組の継続
 - ②情報共有の推進と共通理解・同歩調による指導の充実
 - ③「働き方改革」を意識した勤務時間管理の推進
 - ④業務適正化（効率化・簡略化・削減）の推進
- （6） ○小中一貫教育と地域学校園の取組の充実をめざして
 - ①前年度に地域学校園として作成した小中一貫カリキュラムの確実な実践
 - ②発達段階に応じた小中一貫による学業指導の充実

【上河内地域学校園教育ビジョン】

かしこく、たくましいゆずっ子の育成 ～基本を身に付け、人とつながり、夢に向かって生きる子どもを育てよう～

4 教育課程編成の方針

- （1） 基本方針

教育基本法、学校教育法にのっとり、新学習指導要領に基づきながら、上河内地域の地域性や学校の実態及び生徒の心身の発達段階や特性を考慮して編成を行う。
- （2） 留意点
 - ①学校の教育目標や「めざす生徒像」、各教科の目標・ねらいとの整合性を図る。
 - ②社会とのつながりを重視し、「社会に開かれた教育課程」の実現をめざす。
 - ③学習指導要領で示されている各教科等の内容の指導に支障のないように適切な授業時数を確保する。
 - ④「総合的な学習の時間」発表会（11月の最終土曜日を予定）に向けて、「総合的な学習の時間」の特色を踏まえた教科等横断的な視点に立った追究活動の推進や発表をめざした学習を進める。
 - ⑤学校評価との関連付けを図り、PDCAサイクルを機能させたカリキュラムマネジメントを行う。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（１）学校運営	
①生徒一人一人を大切に、個に応じた指導・支援の推進 ②安全面も含め、「学ぶ場」としての学校の環境整備の推進	
③いじめの根絶に向けた取組の推進と不登校対策の充実	
④「地域とともにある学校」づくりをめざし、地域と連携・協働した取組の充実・推進	
⑤業務の適正化推進による教職員の負担軽減と超過勤務時間の縮減	
（２）学習指導	
①確かな学力を身に付けさせるための授業展開や学習活動の工夫	
②家庭学習の習慣化とその充実に向けた指導・支援の強化	
○③地域学校園としての学習ルール指導を中心とした学業指導の充実による「学びに向かう集団づくり」の推進	
（３）児童生徒指導	
○①基本的な生活習慣を身に付け、高い規範意識に基づき行動する生徒の育成	
②生徒指導部会や教育相談・特別支援教育部会を中心とした組織的な対応	
○③体験活動・読書活動、さらには道徳科の授業等を通しての「宮っ子心の教育」の推進	
（４）健康（体力・保健・食・安全）	
①給食や食農体験等の充実による地域の特色を生かした食育の推進	
○②検診結果を踏まえた地域学校園として連携した歯科保健指導の充実	
○③地域学校園の小中一貫カリキュラムを踏まえた運動生活の習慣化	

6 令和４年度自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケートの「生徒は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習にとりくんでいる」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 本時のめあてを分かりやすく具体的に提示し、見通しをもたせる授業を展開するとともに、めあてに対する振り返りをさせる。 ②○必要に応じて、授業の中で話し合い活動を取り入れるなど、主体的で対話的な学習が進められるような学習形態を工夫する。 ③○図書委員会と協力して家庭学習ノートの提出を徹底し、家庭学習の習慣化と内容の充実を図る。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 94.8%で、目標値を 14.8 ポイント上回った。話し合い活動を通して、自ら考える姿が多くみられた。 【次年度の方針】 ○家庭学習ノートの提出を確実なものとし、内容を工夫させる。また、主体的で対話的な学習の場を多く設定する。
	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒生徒肯定回答 80%	①○思いやりの基本となる、相手の話を目・耳・心で聞くよう、話の聞き方について指導する。 ②○相手に対してどのように伝わるかなど、相手の心情を考えて話すよう意識させる。 ③ 生徒会と協力し、いじめゼロ集会などを通して、生徒の思いやりに対する意識を高める。 ④ 学校行事を通して周りの人への感謝の気持ちも含めて振り返らせる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 94.8%で、目標値を 14.8 ポイント上回った。誰に対しても分け隔てなく接する生徒が多く見られた。 【次年度の方針】 ○相手に対する話し方や聞き方を指導することを継続し、授業や学校生活を通して言葉の伝わり方を考えさせる指導の充実を図る。
	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、きまりやマナーを守って、生活している。」 ⇒生徒肯定回答 90%	①○学校行事や委員会活動、部活動を通して生徒と対話のできる関係と雰囲気づくりを推進し、マナーを守って生活することの大切さを指導する。 ②○道徳の授業や日々の生活において、時と場に応じた言動や相手への思いやりについて生徒に考えさせ、意識を高める。 ③○チャイム 2 分前着席や指名・指示されたときの返事を徹底する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 93.0%で、目標値を 3.0 ポイント上回った。生徒会を中心に話し合い、生活のきまりの見直しを進めている。 【次年度の方針】 ○自分たちで見直したきまりやマナーを、周知徹底できるよう指導する。

目 指 す 生 徒 の 姿	A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒生徒肯定回答 90%	①○生徒会や教職員・PTA によるあいさつ運動を活発に行うとともに、部活動でもあいさつ指導の充実を図る。 ②○教職員が率先してあいさつをすることで、学校全体があいさつをする雰囲気を高める。 ③○あいさつ強化週間をつくり、率先してあいさつをする意識を高め実践させる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 97.7%で、目標値を 7.7 ポイント上回った。元気なあいさつが飛び交う様子が見られた。 【次年度の方針】 ○生徒会、教職員、地域協議会、保護者等によるあいさつ運動を継続して行い、互いに率先してあいさつができるよう意識を高める。
	A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 各学級で、1 年間の自分の目標を設定させ、定期的に見直しをさせることにより、目標に向かって取り組むことを意識させるとともに達成感を味わわせる。 ② 定期テストにおいて、テスト計画表を作成させる際に、数値目標など具体的な目標を設定させ、計画的に取り組ませる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 84.3%で、目標値を 4.3 ポイント上回った。テスト前の計画表に従ってしっかり取り組んだ生徒が多くみられた。 【次年度の方針】 ・学期ごとに目標を設定させ、それに向かって努力させる。
	A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 保健だよりや健康委員会による「姿勢の日」の活動を通して、健康な生活について啓発をする。 ②○新体力テストの結果を基に、不足している基礎体力作りに取り組む。体育の授業では計画的に補強運動を取り入れ運動量の増加を目指す。 ③ 自転車通学の生徒が多いので、登校指導や自転車点検、交通安全教室などの活動を通して、自転車の正しい乗り方、交通安全の意識を高める指導を徹底する。 ④ 新しい生活様式の徹底を図り、感染防止に努める。また、偏見・差別等が起きないように、心の教育を実践していく。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95.9%で、目標値を 15.9 ポイント上回った。概ね健康や安全に注意して生活できた。 【次年度の方針】 ○自転車の正しい乗り方について意識を高められるよう交通安全教室や委員会活動を通して指導していく。
	A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒生徒肯定回答 80%	① キャリアパスポートを活用し、自己の活動を振り返らせることにより、新たな学習や生活への意欲につなげ、将来の生き方を考えさせる。 ② 各学年で、自らの目標を意識させる時間を設けるなど、進路に関する指導を一層充実させる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 84.3%で、目標値を 4.3 ポイント上回った。奉仕活動では、地域のためにボランティアすることの喜びを実感している生徒が多くみられた。 【次年度の方針】 ・ボランティア活動を充実させ、地域との接点をより増やす。
	A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、英語の授業や ALT との交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒生徒肯定回答 80%	①○英語による授業を行う。また、教員（ALT を含む）との対話活動や、生徒がペアになって自分の考えや気持ちを英語で伝え合ったりする活動など、生徒が発話する場面を多く設ける。 ②○チームティーチングの授業で、T1 と T2 が英語でのやりとりのモデルを多く見せることにより、生徒に自然とやりとりの仕方を身に付けさせる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 89.5%で、目標値を 9.5 ポイント上回った。感染症対策を取りながら、ペアでの対話活動を工夫した。ALT や教師とのやり取りに積極的に臨む生徒が多くみられた。 【次年度の方針】 ○生徒が興味を持ちやすいテーマを設定し、生徒が「話しやすい」環境をつくるように努力する。
	A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 地域の良さを知るために、地域の人と一緒にになって行事に参加することにより「郷土愛」を育ませる。 ② 総合的な学習の時間において、宇都宮学に取り組むことで郷土の良さを再認識させる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 87.2%で、目標値を 7.2 ポイント上回った。地域行事を通して、宇都宮の良さを知った生徒が増えたと考えられる。 【次年度の方針】 ・地域行事に積極的に関わることで、地域に関する理解を深めさせる。

目 指 す 学 校 の 姿	A10 生徒は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、PC や図書等を学習に活用している」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 各教科や総合的な学習の時間において、タブレットや実物投影機を利用して、調べ学習や発表に取り組ませる。 ② 国語科の調べ学習において、積極的に図書館を利用する。また、他教科においても、授業で図書の活用を進める。 ③ クロムブックの様々なアプリケーションを活用できるようにする。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 86.6%で、目標値を 6.6 ポイント上回った。調べ学習やまとめ学習で ICT 機器を活用する場面が見られた。 【次年度の方針】 ・各教科等において積極的に学校図書館を活用する。また、家庭学習等で e ライブラリの活用を促す。
	A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 福祉委員会による 1 日早い年賀状作成などの活動を通して、高齢者に対する理解を深め、いたわりの気持ちを育む。 ② 教育活動全体を通して、愛情を注いでくれる自分の祖父母や、ボランティアで地域のために活動する高齢者に対して、感謝の心や共に生きていこうとする気持ちを培う。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 94.8%で、目標値を 14.8 ポイント上回った。委員会活動を通して、1 日早い年賀状を作成するなどし、高齢者に対する感謝やいたわりの心を育んだ。 【次年度の方針】 ・学校行事や福祉委員会の活動を通して、高齢者に対する理解を深め、思いやりの心を育む。
	A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、環境問題や防災等の持続可能な社会について、関心をもっている」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 生徒会と連携し、節電やリサイクルによる再利用について呼びかけ、回収活動を実施することで、生徒の関心を高める。 ② 避難訓練等を通して、火災や自然災害の対策を身に付けさせ、自ら考え行動する生きる力の育成を図る。 ③ 授業や学校行事を通して、「持続可能な社会」や「SDGs」について理解を深めさせ、身近なものに関連させる。	A	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 77.3%で、目標値を 2.7 ポイント下回った。普段行っていることが、「持続可能な社会」の実現とつながっていることに気付かない生徒が多いのではないかと考えられる。 【次年度の方針】 ・授業や学校行事を通して、持続可能な社会や SDGs について理解を深めさせ、身近に実施している活動と関連させる。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員肯定回答 90%	① 特別な支援を必要とする生徒の実態を把握し、校内支援委員会を実施し、共通理解を図る。 ② 生徒指導部会や教育相談部会等を定期的に行い、生徒に対する支援の共通理解を図る。 ③ SC や MS 等と連携を図り、ステップルームの利用など、個に応じた対応に心掛ける。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 95.7%で、目標値を 5.7 ポイント上回った。教職員が連携し、生徒の実態に応じた支援ができるよう共通理解が図られている。 【次年度の方針】 ・支援の方向性を明確にしながら、適切な支援ができるよう今、後も組織的に対応する。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒生徒肯定回答 90%	①〇休み時間の巡回指導や教育相談、嫌な思いアンケートを活用して、いじめを早期に発見する取り組みに努める。また、生徒の不適切な言動に対して細かな声掛けを行う。 ②〇いじめに対しては、いじめ対策委員会で組織的かつ迅速に対応する。 ③〇保護者会やHP、各種だより等で取組を周知する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95.9%で、目標値を 5.9 ポイント上回った。教育相談や生徒アンケートを定期的に行い、速やかな対応をした。 【次年度の方針】 〇今後も、日々の指導や、教育相談などのいじめを事前に防ぐ取組を継続し、早期発見、早期対応を図るとともに、学校の取組を伝える。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、生徒がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 ⇒生徒肯定回答 80%	①〇教育相談部会において、不登校傾向の生徒について、SC、MSと連携した対応を検討し、全教職員が共通理解の下、支援に当たる。 ②〇Q-Uの結果や日記指導（スタンダードダイアリー）、学年共通のエンカウンター実施することで、学級集団としての状態や、生徒一人一人の意欲や満足感を把握し、学級経営に生かす。 ③〇自尊心を高めるような声掛けを全教職員で実施する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 94.8%で、目標値を 14.8 ポイント上回った。生徒の状況に応じた個別対応を行った。 【次年度の方針】 〇居場所づくりと所属意識の向上に努める。

目 指 す 学 校 の 姿	A16 教職員は、外国人生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート「外国人生徒に対する支援ができています」 ⇒教職員肯定回答 90%	① 英語科・ALTを中心とした授業を実践し、外国語の苦手意識を軽減させる努力に務める。 ② グローバル社会を意識し、生徒や保護者への適切な支援に心掛ける。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 95.7%で、目標値を 5.7 ポイント上回った。教職員は国籍を問わず人権に配慮した対応に努めた。 【次年度の方針】 ・英語の授業や道徳の授業を通して、国際理解教育を推進する。
	A17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケート「私は、今の学校が好きです」 ⇒生徒肯定回答 90%	① 運動会や文化祭等の学校行事が感動ある活動になるように、生徒が主体的に企画・運営・参加できるように指導する。 ② 生徒が自ら考える機会を数多くつくり自主的活動を充実させ、生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られるような集団づくりを推進する。 ③ エンカウンター等の人間関係を円滑にさせる取組を充実させるなど、居心地の良い学級づくりを推進する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 93.0%で、目標値を 3.0 ポイント上回った。感染症対策をとり、生徒の活動を可能な限り取り入れた。 【次年度の方針】 ・生徒主体の教育活動や居心地の良い学級づくりを引き続き継続し、生徒の自己肯定感や自己有用感を高めるとともに、学校の取組の様子を、情報として発信する。
	A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケート「先生方の授業は分りやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒生徒肯定回答 80%	① TT やかがやきルームの利用など少人数指導の工夫により基礎基本の定着を図り、本時のめあてを明示し振り返りを記入させることにより、「分かる授業・できる授業」を目指し、指導法の改善に努める。 ②〇「表現力を高め、自分の考えを伝え合う授業」をテーマとした「一人一授業」を実践し、個々の教員の授業力向上を図る。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 97.7%で、目標値を 17.7 ポイント上回った。一人一授業や校内研修を通して、各教員が、授業力向上に努めた。 【次年度の方針】 〇本時の学習のまとめや振り返る活動を充実させる。また、一人一授業を継続し、教員の授業力向上に努める。
	A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員肯定回答 80%	① 新しい学習評価や GIGA スクール構想の確実な実施に向け、教職員が一丸となって、生徒達のために共通理解を図り計画的に教育活動を実践する。 ② 各種委員会を定期的に開催し、リーダーを中心にそれぞれの教育活動推進と次年度に向けた検証を行う。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 95.7%で、目標値を 15.7 ポイント上回った。新連絡網導入や学校行事等に、職員間が組織的に協力し合って対応した。 【次年度の方針】 ・各主任のリーダー性や教職員の持ち味が発揮できる雰囲気づくりを進め、学校運営が組織的・協働的に行われるよう努める。
	A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員肯定回答 80%	① 学校経営方針に基づき教育活動を実践するとともに、教職員が担う業務の明確化・適正化を検証する。 ② 職員会議や校務運営委員会での協議を継続し、会議等の効率化・適正化を図り、教職員が生徒に向き合う時間確保に努める。 ③ 宇都宮市部活動の指針に基づき、各部活の適正な計画立案に従い、望ましい部活動の在り方を実践する。 ④ 業務の ICT 化をより進められるよう関係機関に働きかける。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 82.6%で、目標値を 2.6 ポイント上回ったが、昨年度比 - 7.9 ポイントとなった。感染症対策としての制限が減りつつあり、業務が増えていると考えられる。 【次年度の方針】 ・教育課程の改善や業務内容の精選（定式化）を継続し、生徒と向き合う時間を確保する。また、部活動の地域移行について、市教委と連携しながら対応を進める。
	A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」 ⇒生徒肯定回答 80%	①〇地域学校園内小中学校間の連絡・調整等を密に行い、小中合同あいさつ運動や進学先中学校訪問等における活動の充実を図る。 ②〇小中一貫教育における『ゆずっ子』の学びの 5 つの約束を意識させて学習に取り組ませる。 ③〇図書室の図書紹介ポップでの小中交流を生徒に広く周知する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 68.0%で、目標値を 12.0 ポイント下回った。感染症対策をとりながら様々な取組が行われていることから、ねらいとの関連が十分理解されていない面もあると考えられる。 【次年度の方針】 〇引き続き交流等を充実させるとともに、取組の趣旨を説明するなど、ねらいと活動の関連を意識させる。

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 家庭や上河内中学校地域協議会などと連携し、地域学校園の諸活動と関連させながら、農園活動や読み聞かせなどの地域人材を活用した諸活動を推進する。 ②○郷土愛や愛国心を育てるため、梵天祭等への参加を促すとともに羽黒山等の清掃活動「羽黒山ボランティア」等を実施する。 ③ 専門委員会活動で、放送委員会が取組を紹介したり情報を発信したりするなどの、生徒の認識を高める活動を取り入れる。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 77.3%で、目標値を 2.7 ポイント下回った。上河内ならではの行事も減り、地域の人と接する機会が少ないことが要因として考えられる。また、職場体験学習、安全啓発活動、ジュニア救命士講習など、地域、保護者や地域協議会と連携した活動を再開したが、ねらいが十分伝わっていない面もあると推測される。 【次年度の課題】 ○特色ある教育活動の更なる充実を進め、社会に開かれた教育課程の実践と広報に努める。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者肯定回答 80%	①○望ましい礼儀やマナーを育成するため、あいさつ運動や場に応じた適切な言葉づかいの標語募集等の取組や日常的な指導を、地域学校園内小・中学校及び地域協議会が連携・協力して行う。 ② キャリア教育、情報モラル教室や交通安全教室において地域の方や企業等と連携・協力し、教育活動の充実を図る。 ③ 活動を生徒が振り返り、地域等との関連や関わりについて考える時間を作る。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 77.8%で、目標値を 2.2 ポイント下回った。A22 でも触れたが、あいさつ運動標語や写真展などの地域と連携した取組の意義を広めることに課題がある。 【次年度の方針】 ○家庭や地域社会と連携し、上河内の地域的特色を生かした教育活動の実践と、情報の発信に努める。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者肯定的回答 80%	① 安全指導係を中心に全教職員で、校内安全点検を定期的実施し、校内の安全確保に努める。 ② 管理職や事務、学校業務委託員が連携を図り、施設等の迅速な修繕に努める。 ③ 感染症対策を継続し、生徒及び教職員、保護者等の健康に配慮する。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 89.6%で、目標値を 9.6 ポイント上回った。感染症対策や施設整備等への対応に、取り組んできた。 【次年度の方針】 ・定期点検結果の情報共有、管理職への迅速な報告、機動班の積極的活用により、利用者の安全・安心を重視した教育環境を引き続き整える。
A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。 【数値指標】全体アンケート 「生徒は、PC や図書等を学習に活用している」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 情報教育担当や司書が学級担任と連携し、PC 及びタブレット、学校図書館図書、市立図書館の巡回図書等の活用を図る。 ② 読み聞かせの実施や図書だよりによる啓発などにより、学校図書館を核とした読書活動の充実を図る。 ③ デジタル教科書を使用するにあたり、基本的な使い方を学ばせ、使いこなせるようにさせる。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 86.6%で、目標値を 6.6 ポイント上回った。調べ学習やまとめ学習で ICT 機器を活用した。 【次年度の方針】 ・各教科等において積極的に学校図書を活用する。また、読み聞かせや図書委員会の図書紹介などにより、読書活動の充実を図る。
B1 生徒は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】全体アンケート 「生徒は、大人に対して適切な言葉づかいをしている」 ⇒生徒肯定回答 80%	①○小中一貫教育「ゆずっ子の学びの5つの約束」の実践と、地域学校園協議会で課題として取り上げた適切な言葉づかいの継続指導を、協力して行う。 ②○地域学校園協議会において、丁寧な言葉づかい運動を推進し、標語等を募集し成果があったかどうか検証する。 ③○教職員が手本となるような言葉づかいをするよう心掛ける。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95.3%で、目標値を 15.3 ポイント上回った。学校教育全体で、言葉遣いやあいさつについて、意識を高める指導をした。 【次年度の方針】 ○小中一貫教育「ゆずっ子の学びの5つの約束」の実践と地域学校園協議会と連携した適切な言葉遣いの指導を継続する。

本校の特色・課題等	B 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】全体アンケート「先生はよいところを認め直すべきところはしっかりと指導している」 ⇒生徒肯定回答 80%	① 組織的な対応方針等を共通理解し、生徒の指導に当たる。 ② 生徒情報の交換を密にし、協力体制の中で、生徒のよさを認め励まし、個に応じた支援を一層充実させる。 ③ 校内公開授業や各種研修会で学んだことを生かし、生徒が主体的に授業へ取り組めるよう工夫・改善する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 96.5%で、目標値を 16.5 ポイント上回った。教職員で情報交換を密にし、共通理解を深め、個に応じた組織的な支援に取り組んだことが要因と考えられる。 【次年度の方針】 ・引き続き、組織としての対応をとるとともに、生徒の情報を共有し、授業や行事等を通して、自己肯定感を高める指導に努める。
	B 3 生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している 【数値指標】全体アンケート「生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している」 ⇒生徒肯定的回答 80%	①○梵天祭、上河内地区体育祭、上河内福祉まつり、上河内文化交流会など、地域の行事があるときは、部活動を休みにして、生徒が積極的に参加できるようにする。 ②○羽黒山の清掃活動「羽黒山ボランティア」や学校周辺の清掃活動を実施し、郷土を愛する心を育てる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 76.2%で、目標値を 3.8 ポイント下回った。コロナ禍の影響で地域の行事が中止や縮小になったが、できることを探し、奉仕活動に取り組んだ。 【次年度の方針】 ○地域ボランティア活動に積極的に参加する生徒の育成に努める。
	B 4 自分の考えを豊かに表現する力と豊かな心（関心・感動・感謝・思いやり等）の育成が図られている。 【数値指標】全体アンケート「生徒は、文化祭や総合的な学習の時間などで、充実した発表ができた」 ⇒保護者肯定的回答 90%	① 生徒会活動等を通して、生徒が前に出て発表する機会を意図的に作る。 ② 「総合的な学習の時間発表会」の準備では発表の仕方を学ばせるなどして、発表の質を高める。 ③ 各行事における振り返りの内容を工夫して、自分の感動体験をより実感させる。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 96.3%で、目標値を 6.3 ポイント上回った。生徒の活動の様子を、文化祭や総合の発表会等で知ることができたためだと考えられる。 【次年度の方針】 ・オープンスクールや授業参観などで生徒が発表する機会を設ける。
	B 5 豊かな表現力を支える言語能力を向上させるため、読書の習慣化を図る。 【数値指標】全体アンケート「私は、読書が好きです」 ⇒生徒肯定的回答 75%	① 「朝の読書」の時間が充実するように、廊下の掲示物を作成し、生徒の興味・関心に応じた図書を選定、探しやすく見付けやすい図書室の配架、定期的な学級文庫の入替等を行い、図書を借りやすい環境作りをする。 ②○生徒会図書委員会活動の工夫による読書啓発、図書ボランティアをより一層活用した読み聞かせやブックトークを計画的に行い、読書に対する興味・関心を高める。 ③ 興味・関心を高めるためにクロムブックのアプリケーションを効果的に活用させる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 69.2%で、目標値を 5.8 ポイント下回った。生徒にアンケートをとり、興味・関心や実態に合わせた本を整備した。図書館クラスルームで本を紹介してきた。 【次年度の方針】 ・ICT 機器を活用し、読書活動を啓発する。また、読み聞かせやブックトークを行い生徒の読書に関する興味・関心を高める。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

●数値指標から

- 1 全30項目中、24項目で数値指標を達成した。【達成率：80.0%】
- 2 達成できなかった項目は次の通りである。特に、達成度が60%台であるA21、B5は課題である。

A12 持続可能な社会 (SDGs)	生徒	77.3%	目標値－2.7ポイント
A21 小中一貫・地域学校園	生徒	68.0%	目標値－12.0ポイント
A22 特色ある教育活動	生徒	77.3%	目標値－2.7ポイント
A23 家庭・地域・企業等との連携	保護者	77.8%	目標値－2.2ポイント
B3 地域でのボランティア活動・行事	生徒	76.2%	目標値－3.8ポイント
B5 読書	生徒	69.2%	目標値－5.8ポイント

●経年比較から

- 1 生徒の肯定的回答率は、前年と比べて、全21項目中、12項目で増加、9項目で減少した。生徒の肯定的回答率は、【+4.5～－3.1】の間で変動した。
保護者の肯定的回答率は、前年と比べて、全20項目中、4項目で増加、16項目で減少した。保護者の肯定的回答率は、【+16.9～－12.7】の間で変動した。生徒の結果と比べて、低下した項目が多く、幅も大きい。

- 2 上昇した項目(値の大きいもの)

生徒 B3「地域のボランティア活動・行事」、B5「読書」、A9「宇都宮の良さ」
保護者 B4「文化祭などでの発表」、A6「健康や安全」、A1「進んで学習に取り組んでいる」

- 3 低下した項目(値の大きいもの)

生徒 A5「夢や目標」、A7「あきらめない・粘り強さ」、A15「認め励まし合う学級づくり」
保護者 A14「いじめ対策」、B2「よさを認める指導・指導すべきところの指導」、A21「小中一貫・地域学校園」

※ 昨年度に比べればコロナ禍による教育活動の制限は緩和され、実施できた行事等もあるが、現在、「ウィズコロナ」を見据え、教育活動の行い方・在り方を模索しているところである。人との交流が一層求められる項目(「小中一貫・地域学校園」、「家庭・地域・企業等と連携」など)は、肯定的回答率が低下している。

●今年度の重点目標から

- 1 学校運営…一人一人を大切にした指導・地域とともにある学校づくり

◇B2「よさを認める指導・指導すべきところの指導」の評価項目においては、生徒 96.5%、保護者 81.6%であり、ともに80%を上回っている。今後も、日常生活や学校生活を通して、生徒一人一人の自己有用感、自己肯定感を高める指導をしていきたい。

◇A21「小中一貫・地域学校園」においては、生徒 68.0%、保護者 81.0%であった。感染症対策を取りながら、あいさつ運動・中学生が作成したおにぎりづくりの資料提供・お話給食の実施・地域学校園図書だよりの発行など、様々な取り組みが行われている。A22「特色ある教育活動」については生徒 77.3%、A23「家庭・地域・企業等との連携」については、保護者 77.8%であった。地域や企業と連携した食農体験、職場体験学習・安全啓発活動・ジュニア救命士養成講習などが行われている。80%に達していないため、今後、活動のねらいを明確に伝えることについて検討が要る。

- 2 学習指導…確かな学力の育成

◇A18「分かりやすい授業」において、生徒の肯定的回答率は昨年度に比べ、2.4%高い97.7%であり、目標より17.7ポイント高かった。また、多くの関連項目で目標を上回った。今年度も一人一授業や校内研修を通して指導技術の向上を図り、生徒にきめ細かい指導を行ってきた。今後も、一人一授業を継続し、教員一人一人の指導力向上に努める。

◇B5「読書」においては、生徒の肯定的回答率は昨年度と比べ、3.6%高い69.2%であるが、目標を5.8ポイント下回った。生徒にアンケートをとり、興味や実態に合わせた本を整備したり、学級文庫を充実させたりしたため、少しずつ読書に親しむ生徒が増えてきた。今後も、読み聞かせやブックトークなどの継続的な実施や各教科の授業において積極的な学校図書館の活用を図り、読書に関する興味・関心を深めるようにする。

◇A12「持続可能な社会」については、生徒 77.3%であった。現在学んでいることとSDGsとの関連をより意識させたい。

- 3 生徒指導…基本的な生活習慣・心の教育の推進

◇A4「きまりやマナー」の評価項目においては、生徒 93.0%、保護者 91.4%と、ともに90%を上回っている。また、A4「あいさつ」については、生徒 97.7%、保護者 84.7%であり、ともに80%を上回っている。基本的な生活習慣を身に付け、落ち着いて生活していると考えられる。

◇A14「いじめ対策」の評価項目においては、生徒 95.9%、保護者 72.0%であった。また、A15「認め励まし合う学級づくり」においては、生徒 94.8%、保護者 79.0%であった。今後、学校の取組を点検するとともに、保護者に伝えるという観点からも検討していく。

- 4 健康…体力・保健・食・安全

◇A6「健康や安全」の評価項目においては、生徒 95.9%、保護者 92.9%であった。感染症対策を意識し、健康や安全を考えて生活できていると考えられる。自転車通学の生徒が多いこともあり、今後、ヘルメット着用の義務化の観点から

も適切な乗り方について指導していく。

7 学校関係者評価

● あいさつ

- ・登校指導の様子を見ていると挨拶がよく返ってくる。素直さを感じる。
- ・挨拶の声が大きくなっている。身だしなみもよい。10数年前から変わりなく、挨拶がよくできている。

● きまりやマナー

- ・自転車で登校する生徒が列を作っており、ルールを守っていることを感じる。

● いじめ対策

- ・保護者と生徒の肯定的回答率の差が20ポイントほどあるため、保護者の思いと子供の思いを考える必要がある。学校の取組の中で何が機能していないのか、浸透していないのか、検討してほしい。
- ・保護者と生徒の数字の差は気になることである。保護者の立場で学校に連絡したときの電話の対応の状況などから数値の乖離が生じることがある。教員と保護者のコミュニケーションを大切にしてほしい。

● 学校教育全般について

- ・他の学校の様子と比べて、保護者の評価は高い。
- ・全体的に見て、教育活動はよいと考えられる。学校から情報を発信することが大切であり、父兄が知らないことを動画などを用いて伝えてほしい。
- ・未来会議の様子からは、生徒がはきはき意見を言うことができることが伝わる。この学校に子どもたちを任せて大丈夫と思っている。

8 令和4年度のまとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

● 1 学校運営

- ◇「よさを認める指導・指導すべきところの指導」について、今後も、日常生活や特別活動（運動会・文化祭・宿泊的行事など）を通して、生徒一人一人の自己有用感、自己肯定感を高めていく。これらの取組から学級等への所属意識の向上を図り、生徒の居場所づくりの一助とする。
- ◇「小中一貫・地域学校園」について、感染症対策を取りながら、あいさつ運動・中学生が作成したおにぎりづくりの資料提供・お話し給食の実施・地域学校園図書だよりの発行など、今後も小・中で連携しながら取り組んでいく。「特色ある教育活動」については、今後も、地域や企業と連携した食農体験、職場体験学習・安全啓発活動・ジュニア救命士養成講習などを行う中で、活動のねらいを明確に伝え、活動の意義がわかるよう指導する。特に、ボランティア活動については、地域の活動に合わせ、参加できるようにする。
- ◇「業務の効率化」について、業務内容の精選に努める。望ましい部活動の在り方について市教委と連携を深める。
- ◇学校の教育活動について、学校の取組が伝わるよう、ホームページなどを通しての情報発信を心がける。感染症の状況を踏まえながら、オープンスクールなどの来校機会を設定する。

● 2 学習指導

- ◇「分かりやすい授業」を行うため、今後も一人一授業公開や校内研修を通して、各教員の指導技術向上に努める。
- ◇「ICT機器」については、引き続き、授業中で活用するための指導技術の向上に努める。
- ◇「読書」については、今後も、読み聞かせやブックトークなどの継続的な実施や各教科の授業において積極的な学校図書館の活用を図り、読書に関する興味・関心を深めるようにする。
- ◇「持続可能な社会」については、現在学んでいることとSDGsとの関連をより意識させ、繋がっていることを感じさせる。

● 3 生徒指導

- ◇「きまりやマナー」については、基本的な生活習慣を身に付け、落ち着いて生活していると考えられることもあり、現在の取組を続けていく。また、自分たちできまりなどを見直す活動を行い、きまりを遵守しようとする意識を高める。
- ◇「ゆずっ子の学びの5つの約束」を学業指導と関連付け、実践を通し、規範意識を育てる基盤とする。
- ◇「いじめ対策」については引き続き、日々の指導や教育相談・アンケートなどを行い、早期発見・早期対応を図る。今後、学校の取組を点検するとともに、保護者に伝えるという観点からも検討していく。また、保護者とのコミュニケーションの在り方について、意思の疎通がより円滑になるよう心掛ける。

● 4 健康

- ◇「健康や安全」については、生徒は感染症対策を意識し、健康や安全を考えて生活できていると考えられることもあり、現在の取組を、新しい知見を導入しながら改善・継続する。自転車通学の生徒が多いこともあり、今後、ヘルメット着用の義務化の観点からも適切な乗り方について指導していく。